

実践報告

西九州大学子ども学部における子育て支援活動  
—「子どもミュージアム」平成26年度の活動報告—

西村麻希・田中麻里・西村侑香里

(西九州大学子ども学部子ども学科)

(平成28年1月29日受理)

**Child rearing support activities in Faculty of Children's Studies in Nishikyushu University  
of fiscal year 2014 "Children's Museum" activity report**

Maki NISHIMURA, Mari TANAKA, Yukari NISHIMURA

*(Department of Children's Studies, Faculty of Children's, Nishikyushu University)*

(Accepted January 29, 2016)

**Abstract**

This article is the university's childcare support activity report on the "Children's Museum". In 2014, the museum was opened 13 times, and a total of 133 households (324 people) participated. While 2014 saw a slight decrease in new visitors compared with the results of the previous year, there was an increase in the number of participants who took part "4 or more times." This suggested that repeat participants are increasing.

Also, an analysis of the content of what types of things the students learned or realized through these activities was conducted based on a student survey. As a result, the following five categories were extracted as the practical learning done by the students: 1) attitude about activities; 2) understanding other people; 3) attitude about communication; 4) environmental composition; and 5) considerations about health and safety.

Key words : Childcare support activities 子育て支援活動

Support Training 支援者養成

Practical learning 実践的学び

## 1. はじめに

本学における子育て支援事業「子どもミュージアム」は、地域の子どもとその保護者を対象とした子育て支援活動であり、子ども学部新設の平成21年度から継続開催している。

本事業の大きな目的として、「子育て・子育てのための地域支援活動」、「地域に開かれた大学づくり」、「保育・教育者を志す学生の実践活動」の3つを挙げており、本学科学生が中心となって企画・運営をおこなっている。

また本事業の活動テーマとして、“子ども文化の創造”を掲げており、本活動への参加を通して、人と人との繋がりを感じ、且つ子どもの成長過程に必要とするものを体得できるような“場”の提供を目指している。

開設から7年目を迎えたいま、その内容も多岐に渡り、体遊び・歌・おはなし・科学・身近な自然との触れ合いなど、様々な充実したプログラムが年間を通して組み込まれており、近年の参加申込みの状況からも、リピーターの増加や保護者同士の紹介による参加が増えるなど、本学による取り組みが少しずつ地域に周知されはじめてきたことが窺える。

本学における子育て支援事業が、保・幼・小領域における専門職業人を目指す学生にとって実りある学びとして繋がり、且つ地域の中でさらなる発展を遂げていく為にも、これまでの取り組みについて振り返り、実践活動の意義や目的そして、本事業に参加した学生一人ひとりが実践を通してどのような学びを得ているのかについて検証していくことが必要である。

そこで本稿においては、平成26年度の活動内容及び実績について報告し、実践活動の意義や活動を続けていく上での今後の課題について検証をおこなう。そしてさらに、学生アンケートで得られた記述内容から、本事業に参加した学生たちが実践を通してどのような“学び”や“気づき”を得ていたのか、内容分析をもとに検証をおこなうこととする。

## 2. 活動内容と実績

### 1) 開催日時

就学前のお子さんとその保護者、そして小学生を主な参加の対象層にしていることを踏まえて、平日（木曜日）開催と土曜開催の2パターンを開催日と

Table. 1 活動の流れ

木曜日開催	土曜日開催	活動スケジュール	学生の動き
10:15～	9:30～	受付開始	環境設定 受付・駐車場誘導
11:00～12:00	10:30～11:45	ミュージアム開催	活動プログラムの実施
12:00～14:00	—	施設開放(木曜日のみ)	片づけ・掃除

して設定した。

活動の時間帯は平日・土曜両日ともに午前中を設定している。各開催日の活動の流れを、Table. 1に示す。

### 2) 活動場所

本学佐賀キャンパスの「子育て支援室」「保育演習室」「表現スタジオ」（3号館1階）を主な活動場所として使用した（Figure 1, 2, 3）。その他、プログラム内容に合わせて「体育館」「美術工芸室」「理化学実験室」を使用し活動を実施した。

また、平日開催時のみ活動終了後（12時～14時迄）に「子育て支援室」と「保育演習室」の2室を施設



Figure. 1 表現スタジオ



Figure. 2 保育演習室



Figure. 3 子育て支援室

Table. 2 参加申込の状況

	平成25年度	平成26年度
参加世帯数	71	48
(内訳) 継続	24 (33.8%)	16 (33.3%)
新規	47 (66.2%)	32 (66.7%)

実数は世帯数を標記

Table. 3 子どもミュージアムのプログラム内容と参加実績（平成26年度）

	開催日	曜日	内容	担当	参加世帯数	参加人数	参加学生数
第1回	5月22日	木	楽器で遊ぼう	櫻井琴	8世帯	16名	7名
第2回	6月5日	木	絵本小劇場	高尾	9世帯	18名	9名
第3回	6月19日	木	おはなしのくにであそぼう	金久	8世帯	17名	4名
第4回	7月3日	木	おもちゃdeチャチャチャ	田中	16世帯	36名	7名
第5回	10月9日	木	親子で遊ぼう	赤星	17世帯	39名	7名
第6回	10月18日	土	体を遊ぼう	松本	9世帯	25名	9名
第7回	11月1日	土	作ってあそぼう	前村	5世帯	15名	7名
第8回	11月13日	木	木製おもちゃで遊ぼう	田中	14世帯	30名	24名
第9回	11月27日	木	みんなでたのしくあそぼう	櫻井京	12世帯	26名	9名
第10回	12月6日	土	お話の世界で遊ぼう	香川	7世帯	22名	8名
第11回	12月20日	土	世界のあそびであそぼう	松井	6世帯	17名	9名
第12回	1月17日	土	まねる力を伸ばそう（2）	真田	14世帯	38名	6名
第13回	1月24日	土	“かず”や“かたち”で遊ぼう	川上	8世帯	25名	8名
				合計	133世帯	324名	114名

開放し、子どもの“遊びの場”や保護者同士の“憩いの場”を提供している。

施設開放時の具体的な利用人数についての把握はおこなってはいないが、活動終了後に親子で昼食をとったり、保護者同士が情報交換をしたりして談笑する場面が度々見受けられるようになり、親子が集う1つのコミュニティとして機能している様子がうかがえる。

### 3) 申込状況

平成26年度の参加申込の状況は、継続48世帯・新

規32世帯であった。新規申込者数に関しては全体の約6割を占めており、前年度と同様の傾向であった（Table. 2）。

### 4) プログラムの内容と参加実績

平成26年度は年間13回の開催（平日開催7回／土曜開催6回）をおこない、延べ133世帯（324名）の参加があった。

各回のプログラム内容および参加実績を、Table. 3, 4に示す。

## 3. 参加者アンケートについて

本活動では、各回の活動終了後に参加者（保護者と小学生以上のお子さん）を対象に、プログラムに参加しての所感や今後の活動への要望等を記述するアンケートを実施している（Table. 5, 6）。

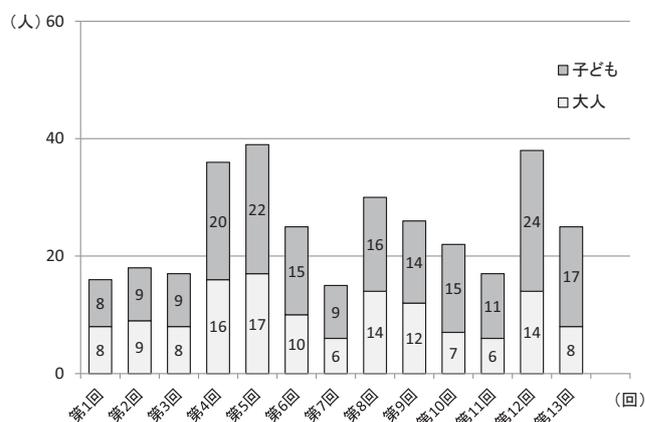


Table. 4 各回別の参加実績

Table. 5 保護者対象アンケートの質問項目

項目1：保護者の基本情報 (性別, 年齢, 勤務状況)
項目2：参加暦
項目3：参加動機
項目4：活動内容への満足度および感想〔自由記述〕
項目5：環境・施設・設備への満足度
項目6：今後の活動への参加希望
項目7：活動への要望・期待〔自由記述〕

Table. 6 子ども対象アンケートの質問項目

項目1：お子さんの基本情報 (性別, 小学校名, 学年)
項目2：参加暦
項目3：参加動機
項目4：活動内容への満足度および感想・要望 〔自由記述〕
項目5：今後の参加希望

平成26年度のアンケート結果を対象および項目別に以下に示す。

### 1) 保護者アンケートの結果

#### (1) 参加者の概要 (基本情報)

「35歳～39歳」が半数を占めており、最も多かった。次いで、「30歳～34歳(36%)」、「40歳以上(10%)」の順で多かった。保護者の中には夫婦共に参加する家族や義母と一緒にプログラムに参加する家族もあった。

勤務形態については、「働いていない」が67%と過半数を占めており、次いで「常勤〔育休含む〕(23%)」、「パート(9%)」となっていた。

#### (2) 参加暦

本活動への参加暦については、「4回以上」が47%と最も多く、次いで「はじめて〔22%〕」、「2回目〔16%〕」となっていた (Figure. 4)。

前年度の実績<sup>1)</sup>と比較すると新規参加がやや減少〔H25年度：37%〕してはいるものの、「4回以上」の参加は増加〔H25年度：37%〕しており、本活動に新たに参加した方が、その後もリピーターとしてプログラムに参加していることが示唆された。

#### (3) 活動参加の動機

参加動機として最も多くを占めていたものとして、「子どもが喜びそうだから」が挙げられ135名中、109名〔80%〕の回答があった。次いで「内容への

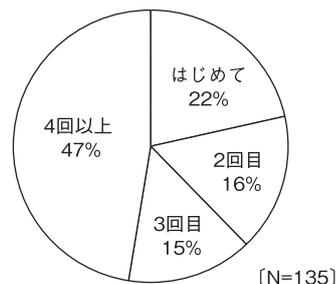


Figure. 4 参加暦

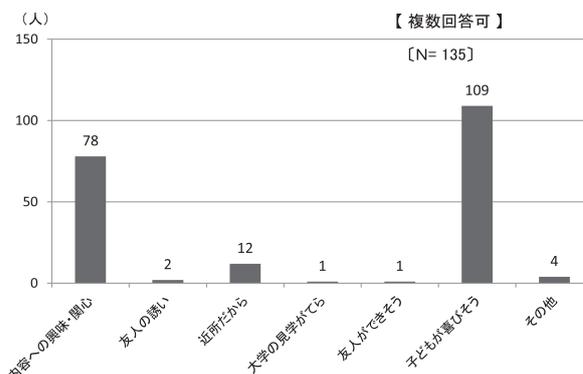


Figure. 5 参加動機

興味関心」が78名〔57%〕, 「近所だから」12名〔8%〕という結果であった (Figure. 5)。

#### (4) 活動内容への満足度

活動に参加しての満足度について4段階評定〔非常に満足した～物足りない〕で回答を求めた。その結果, 「非常に満足した」が56%であり, 次いで「満足」が40%であった。このことから, 活動に参加した保護者の9割以上が満足感を抱いていることが明らかになった。

一方, 「やや物足りない」という回答も4%あり, 寄せられた感想の中には“内容が少し難しかった”や“今回の活動内容が子どもの発達にどうよいのか少し説明が欲しかった”という声が寄せられていた (Figure. 6)。

今後は, 本事業の主たる目的でもある“子育て支

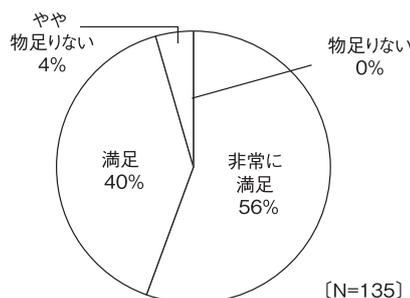


Figure. 6 活動内容への満足度

援”という視点からも、活動参加を通して得た保護者の様々な所感についてより詳しく検証し、本取組みがどのような保護者支援に繋がっているのかをも含めた検討が必要であると考えます。

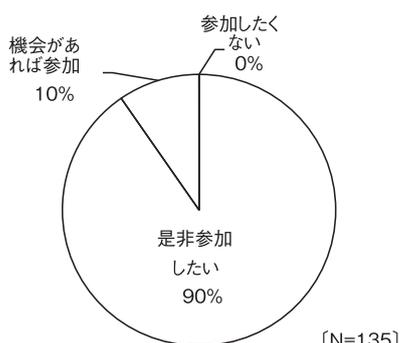
活動に参加しての保護者の声〔自由記述〕を一部抜粋して以下に表記する (Table. 7)。

**Table. 7 活動内容に対する感想〔自由記述〕**

<p>【活動に参加しての感想】 (一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅普段あまりさせたことのない遊びができて満足した。</li> <li>・日頃、手作りのおもちゃに触れていないのでいい機会になった。</li> <li>・思いっきり身体を動かして、子どもも私も満足でした。</li> <li>・子どもに対しての一生懸命さが伝わってきてよかった。</li> <li>・きょうだい児のことを学生さんにみてもらえたので、お姉ちゃんとしっかりと楽しめました。</li> </ul>
---

(5) 今後の活動への参加希望

今後の活動への参加希望について3段階評定〔是非参加したい～参加したくない〕で回答を求めた。最も多かったのは「是非参加したい」で90%であり、次いで「機会があれば参加したい (10%)」となっていた。本結果より、活動に参加したほとんどの保護者が、次回以降の参加を前向きに捉えていることが窺え、Figure. 4で先述したようなリピーターが近年増加している一要因であることが示唆された (Figure. 7)。



**Figure. 7 今後の活動への参加希望**

2) 子ども (小学生以上) 対象アンケートの結果

平成26年度は、189名の参加者 (保護者除く) のうち14名が小学生以上のお子さんであった。小学生以上の参加者を対象に実施したアンケート結果を以下に示す。

(1) 活動参加の動機

活動参加への動機として、「お家の人が申し込んでいたから」が最も多く7名が回答していた。次いで「おもしろそうだったから〔6名〕」、「大学生と遊びたかったから〔1名〕」であった。

今後は、子どもたち自身が自主的に“参加したい”“やってみたい”と思えるような活動内容の立案、そして広報のあり方を検討していくことが必要であると考えます。

(2) 活動内容への「満足度」及び「今後の参加希望」

参加した子ども (小学生以上) の92%〔13名〕が「とても楽しかった」と回答し、次いで「まあまあ楽しかった」が8%〔1名〕であった。

本結果より、アンケート回答をした全ての子どもが“楽しかった”という所感を得ており、子どもたちが興味・関心を持てるようなプログラムとなっていたことが示唆できる。また、本活動に参加しての感想〔自由記述〕にも“とてもたのしかった”“きゅうけいのときに、だいがくせいとあそべたことがたのしかった”といった声が寄せられていた。

さらに、次回以降の参加希望についても、全ての子どもたちが「参加したい」と回答しており、このことから非常に高い満足感を得ていたことが窺える。

**4. 学生アンケートについて**

本稿の冒頭でも述べたように、本活動の“企画”そして事前準備から活動終了後の後片付けといった“活動運営”については、「子ども学演習」の受講生 (子ども学部子ども学科3年生) が中心となりおこなっている。

また、活動終了後には、企画・運営に携わった自身を振り返り、且つ活動を通しての学びや気づきを省み次に繋げていくことを目的に「学生アンケート」を実施している (Table. 8)。

本項においては、活動参加を通して学生がどのような“学び”や“気づき”を得たのかについて着目し、学生アンケートの自由記述や感想〔項目3、4〕

**Table. 8 学生アンケートの質問項目**

項目1：子どもミュージアムでの役割
項目2：参加後の自己評価
項目3：活動参加を通しての学び〔自由記述〕
項目4：参加しての感想〔自由記述〕

をもとに内容分析していく。

## 1) 内容分析の方法

自由記述で得られた回答を、KJ法<sup>2)</sup>に準じて分類・カテゴリをおこない、本活動を通して学生がどのような学びを得たのか内容分析をおこなった (Table. 9)。

Table. 9 内容分析の手順

1. ラベル (切片) づくり
自由記述で得られた文章を、1つの内容につき1枚のカードに表記し、ラベル (切片) 作成をおこなう
2. グループ編成 (小項目)
内容的に類似しているラベルを収集する
3. 表札づくり
収集されたグループに簡潔な言葉で名前をつけていく
4. グループ編成 (大項目)
さらにグループを収集し大きなカテゴリをつくる

## 2) 内容分析の結果

－実践を通して得られた学生の学びについて－  
学生アンケートの分析結果を Table. 10に示す。

子どもミュージアムへの参加を通して得られた“学生の学び”として、『①活動態度』、『②他者 (子ども・保護者) 理解』、『③コミュニケーション・態度 (子ども・保護者との関わり)』、『④環境構成』、『⑤健康、安全面への配慮』の5つが大きなカテゴリとして抽出された。

まず『活動態度』では、企画立案から事前準備・リハーサル、そして活動当日に至るまでの一連の過程の中で、自分自身の態度を省みて得られた学びが主に集約されていた。具体的な項目として、“自分の役割に責任を持ち行動することの大切さ [役割遂行]” や “意見を出し合うこと大切さ [協調性]” などが挙げられていた。

続いて『他者 (子ども・保護者) 理解』では、“子どもの発達段階に応じた関わり大切さ [発達理解]” や “個人の特徴に応じた関わり大切さ [個人特性の理解]” が学生の学びとして挙げられていた。また、子どものみならず共に参加している保護者への理解も学びの一つとして挙げられており、“保護者の気持ちを汲み取ること大切さ” や “子どもの喜びが親の喜びに繋がっているということを学んだ” といった内容が含まれていた。

本活動は、参加メンバーを固定化しておらず、毎

回幅広い年齢層の子どもたちが参加している。さらに、子どものみの参加ではなく保護者も一緒に参加できる活動内容となっている為、様々な視点をもって活動に取り組むことが求められる。自由度の高いグループ構成が背景にあったこともあり、先述したような多くの学びが得られていたのではないかと推察する。

3つ目の『コミュニケーション態度』では、実際の参加者との関わりを通して学んだことが集約されていた。具体的な内容として、“状況に応じて声のトーンや速さ、音量を変化させること大切さ [声掛け]” や “子どもの視点に立って関わること大切さ [共感的理解]”，“様々な状況・可能性を想定しながら柔軟に行動すること大切さ [臨機応変な態度]” などが学生の学びとして挙げられていた。

4つ目の『環境構成』では、活動をより豊かにするための環境・空間づくりの大切さに関する学びが集約されていた。具体的な内容として、“関心を引きつけられるような環境設定のあり方 [環境設定]” や “明るく元気に振る舞うこと大切さ [雰囲気づくり]” などが挙げられていた。

最後の『健康、安全面への配慮』では、参加者が安心・安全に過ごせるための配慮・工夫のあり方に関する学びが集約されており、“遊具の消毒や掃除を通して、衛生面に配慮すること大切さを学んだ [衛生面への配慮]” といった内容や “子どものケガや事故を未然防止する為には、様々な場面を想定して安全面に配慮することが大切 [安全面への配慮]” といった学び・気づきが含まれていた。また、本活動では、企画の立案や活動プログラムの遂行以外にも、当日の参加受付や駐車場誘導、参加者アンケートの配布・回収といった役割についても主に学生が担っている。このような活動運営に係わる役割遂行を通しての学びとして、[倫理面への配慮] が挙げられており、“大学ホームページ掲載<sup>3)</sup>用の写真撮影や受付名簿の管理を通して、個人情報の取扱いの重要さや参加者のプライバシーを守ること大切さを学んだ” といった記述も含まれており、実践を通じた様々な学びが得られていたことが示唆された。

## 5. おわりに

平成26年度の活動実績報告および学生の実践的学びに関する内容分析の結果より、以下2つが今後の課題として整理された。

Table. 10 子どもミュージアムへの参加を通して得られた学生の学び〔自由記述の内容分析〕

大項目	小項目	記述内容（一部抜粋）
1. 活動態度	1) 準備（企画立案・事前準備・リハーサル）	・段取りよく計画的に準備をすることの大切さを学んだ ・活動当日のことをイメージしながら準備、リハーサルをおこなうことの大切さを学んだ
	2) 役割遂行	・一人ひとりが自分の役割に責任を持ち行動することの大切さを学んだ
	3) 協調性	・限られた時間の中で協力して取り組むことの大切さを学んだ ・メンバー同士がお互いに協力して取り組むことの大切さを学んだ
	4) 意欲・積極性	・積極的に意見を出し合う姿勢の大切さを学んだ ・自ら率先して行動することの大切さを学んだ
2. 他者(子ども・保護者)理解	1) 子どもの発達の理解	・年齢に応じた内容を考えることの難しさを学んだ ・発達段階によって関心を引く遊びが異なることを学んだ ・様々な年齢層が参加することを踏まえて内容を考えることの大切さを学んだ
	2) 子どもの個人特性の理解	・子ども一人ひとりによって興味、関心を抱く内容が異なることを学んだ ・子どもの特徴を捉え、気持ちに寄り添えるような関わりが大切ということ学んだ
	3) 保護者理解	・子ども達だけではなく、保護者がどのようにしたら楽しめるかを考えることが大切だと学んだ ・(子どもだけではなく)保護者の気持ちを汲み取り、声掛け・行動することの大切さを学んだ ・子どもの喜びが親の喜びにも繋がっているということ学んだ
3. コミュニケーション態度(子ども・保護者との関わり)	1) 声掛け	・子どもたちの興味、関心を引くような声掛けが大切だと学んだ ・年齢層に応じた言葉がけの大切さについて学んだ ・状況に応じて声のトーンや速さ、音量に変化を持たせることの難しさや大切さを学んだ ・注意を引きつけるような声掛けのあり方について学んだ
	2) 共感的態度	・子どもの視点に立って関わることの大切さを学んだ ・子どもに寄り添った関わりの大切さについて学んだ
	3) 臨機応変な態度	・様々な可能性を想定しながら柔軟に行動することの大切さを学んだ ・子どもの反応や表情を見ながら臨機応変に対応することの大切さを学んだ ・計画通りに進めるだけではなく、臨機応変に対応することの難しさを学んだ
4. 環境構成	1) 環境設定	・子どもの関心を引きつけられるような環境設定のあり方について学んだ ・参加者が安心して過ごせる為にも、掃除や環境設定を徹底することが大切ということ学んだ ・子どもたちが楽しく、安全に過ごせるような環境づくりの重要性を学んだ ・効率的に動けるような環境設定のあり方を学んだ
	2) 雰囲気づくり	・季節感を感じられる壁面や楽しい雰囲気味わえるような環境づくりが大切ということ学んだ ・楽しく参加してもらう為にも、意識的に明るく元気に振る舞うことが大切ということ学んだ
5. 健康、安全面への配慮	1) 衛生面への配慮	・遊具の消毒、使用目的別に分類された布巾など衛生面への配慮の大切さを学んだ
	2) 安全面への配慮(ケガ・事故の未然防止)	・子どもの安全に配慮した関わりや準備(環境設定)のあり方を学んだ ・様々な場面を想定して安全面に配慮することの大切さを学んだ ・アレルギーの有無など身体面への配慮の大切さを学んだ
	3) 倫理面への配慮	・写真撮影や名簿の管理など個人情報の取扱いの大切さを学んだ ・参加者のプライバシーを守ることの大切さ(ホームページ掲載時の写真選定の配慮など)を学んだ

1) 保護者〔親〕支援という視点からの活動意義の検討

保護者アンケートの結果や活動参加時の様子から、本活動に保護者が求めるものとして、プログラム参加を通じた“親-子での関わり”以外にも、“親同士の交流や子育て世代が集える場”をニーズの一つとして求めていることが窺えた。

今後は対“子ども”のみならず対“保護者〔親〕”への支援として、本活動がどのような役割・機能を果たしているのか、その『子育て支援』として

の活動意義について、さらに深く検証をおこなっていく必要があると考える。

2) 活動後の振り返りのあり方について

本稿では、子育て支援活動を通じた学生の“実践的学び”に着目し、アンケートの内容分析をおこなった。

分析の結果、“活動プログラムの企画・立案(Plan) - 事前準備 - 活動実践(Do) - 振り返り(See)”といった一連の過程の中で、学生一人ひとりが様々な学びや気づきを得ていたことが

示唆された。

保・幼・小領域での専門職を目指す学生たちが、活動を通して得た個々の学びについてより客観的に捉え、且つさらなる学びの深まりを促せるように、アンケートの項目検討をも含めた、実践後の振り返りのあり方について再度、検討していくことが必要であると考えます。

### 参考文献

- 1) 大城あゆみ・西村麻希・田中麻里, 『西九州大学子ども学部における子育て支援活動－「子どもミュージアム」平成25年度の活動報告－』, 西九州大学子ども学部紀要, 第6号, 111-121, 2015
- 2) 川喜田二郎, 『発想法<続>－KJ法の展開と応用－』, 中公新書, 1970
- 3) 西九州大学ホームページ『子ども研究ネットワーク 子どもミュージアム』